

水道水フッ化物濃度調整法導入のための教育 -リスク認知形成要素の検討-

ついで あきひと
筒井 昭仁

福岡歯科大学口腔保健学講座

【目的】

水道水のフッ化物濃度を調整するう蝕予防法（以下、フロリデーション）は多くの国でポピュレーションストラテジーとして実施され、う蝕を半分以下にする大きな効果をあげている¹⁾。わが国でも洗口法や歯磨剤などフッ化物局所応用法の普及がみられるが、フロリデーションは未実施のままである。米国などではフッ化物が栄養と位置づけられ、う蝕予防にちょうどよい Adequate Intake、問題となる歯のフッ素症の発現のない Tolerable Upper Level などが決められている²⁾。歯のフッ素症は、歯の石灰化期（出生から8歳頃まで）の過量フッ化物の継続摂取によって発現する。専門家間では、軽度のものについては日常生活に問題となるものではないとの合意があり、フロリデーションは「問題となる歯のフッ素症の発現がなく、最大限のう蝕予防効果をあげる」フッ化物濃度で実施されている。今回はフッ化物全身応用を進める教育のためのリスク認知の現状について、一般の人の歯のフッ素症審美評価の状況を調査した。

【方法】

歯科とは関係のない一般主婦42名に歯のフッ素症の各症度の写真15枚とダミーとしてう蝕などその他の歯の異常9枚を加えた全24枚の前歯部等倍写真を目の高さに合わせて約60cm離して掲げ、審美評価をお願いした。評価は「問題ない」「問題があるが気になるものではない」「問題があり気になる」の3段階とし、さらに後者の2つについては、歯の形、色、むし歯、歯並び、歯グキのどれが問題かを聞いた。

【結果】

24枚の評価時間は4.9±1.3分であった。表および図は、歯のフッ素症の特徴である「歯の色」を問題としたものについて、写真24枚に対する42名の評価である。この歯のフッ素症 normal から mild においても「問題あり」とするものが散見されたが、「気になる」としたものは4件であった。しかし、moderate になるとその割合は増し、severe については多くのものが「問題があり気になる」と答えていた。

【考察】

リスク認知は「恐さ」と「未知」で多くが説明され³⁾、フロリデーションそのもの、そのネガティブな可能性としての歯のフッ素症については一般的には未知で恐ろしいものとして扱われることが多い。今回の調査の結果、専門家の合意である問題となる歯のフッ素症の発現のないところで行うフロリデーションについては、一般的にも了解される基準であることが示唆された。フロリデーション実施へ向けての教育においても、う蝕予防というベネフィットはもちろんのことであるが、歯のフッ素症の情報も含めたリスクコミュニケーションを行っていくことの基礎的情報を得ることができたと考える。

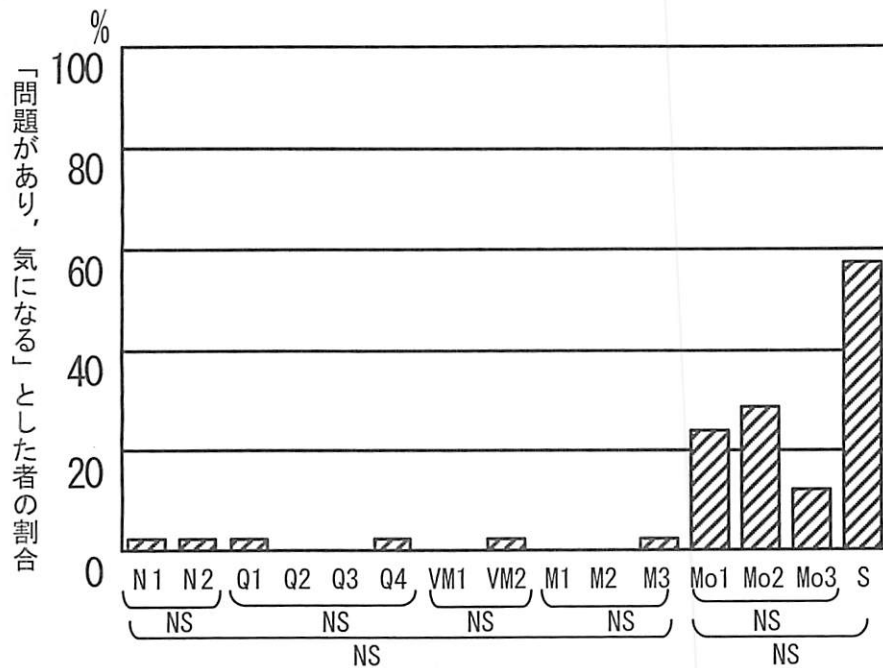
【結論】

一般の人は、歯のフッ素症の重度の症状 moderate, severe は審美的に「気になるもの」と捉えていたが、軽度の Questionable~mild についてはそうではなかった。この捉え方は専門家のそれと同じであった。

表 一般主婦42人による前歯部写真24枚の歯の色についての審美評価

		評価者番号																																													
写真		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42				
歯のフッ素症	N	N1	/									/									/																								/		
		N2																																													
	Q	Q1		/					/																																						
		Q2	/				/																						/																		
		Q3																																													
		Q4				/				/										/														/		/			/			/					
	VM	VM1																																													
		VM2																																													
		M1																																													
	M	M2				/									/																																
		M3							/													/																									
		Mo1	/	/																																											
Mo	Mo2	/																																													
	Mo3																																														
	S																																														
タミー	S																																														
	IM	IM1		/																																											
		IM2																																													
	WS	WS1																																													
		WS2																																													
	EH	EH																																													
		う蝕																																													
	C	治療	/																																												
		JC																																													
		破折																																													

□ 問題ない / 斜線 問題があるが、気になるものではない ■ 問題があり、気になる



歯のフッ素症の症度

N: normal
Q: questionable
VM: very mild
M: mild
Mo: moderate
S: severe



図 歯の色について「問題があり、気になる」とした者の割合

参考文献

- 1) Green LW: Community and Population Health. WCB McGraw-Hill, 1999.
- 2) Institutes of Medicine: Dietary Reference Intakes. National Academy Press, 1997.
- 3) Slovic P: Perception of risk. Science 236: 280-285, 1987.

(連絡先) 筒井 昭仁

福岡歯科大学口腔保健学講座
〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
tel: 092-801-0411内665
fax: 092-801-0616 (直通)
e-mail: tutuia@college.fdcnet.ac.jp